

警戒種

雑草イネ

-水稲作への侵入が危惧される雑草-

同定のカギ

- ・栽培イネにそっくり
- ・籾が簡単に落ちる

変なイネや赤米混入、ありませんか？

雑草イネは、移植でも直播でも猛威を奮います

近年、多くの地域で被害が報告されており、国内全域で発生リスクがあると考えられます。



特徴

水稲直播栽培だけでなく、移植栽培でのまん延圃場も多い。

籾が落ちやすく、軽く握るだけで簡単に落ちる。

出穂期は早生から晩生までさまざま。

多くは栽培イネより背が高いが、やや短稈のものもある。

多くは玄米色が赤い。

濃い籾色・中生

薄い籾色・早生



籾色の濃い雑草イネがまん延した水田



雑草害

収穫物に混入すると、着色米の混入により等級がさがる。

発生密度が10本/m²で20~30%の減収となる。

Oryza sativa

雑草イネ

Ver.2.

お問い合わせ

農研機構
中央農業研究センター
雑草制御グループ
今泉智通
〒305-8666
茨城県つくば市
観音台2-1-18
029-838-8481 (代)
toima@affrc.go.jp

ポイント1：早期発見・対策

放置すると2～3年でまん延し、高コストの防除が長年必要になるため、**発生初期に徹底防除**する。

短稈・薄い籾色など、圃場での発見が困難な雑草イネもある。

農業機械に付着して周囲に広がるため、未発生圃場から先に作業する。

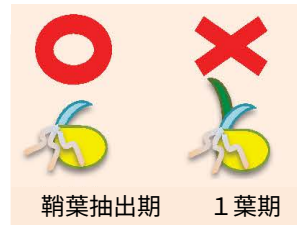


ポイント2：除草剤の散布時期が最重要

1葉期以降の雑草イネには除草剤が効かないため、田植え後、速やかに除草剤を散布する。

代かきから田植えまで時間があく場合は、代かき後に除草剤を散布する。

有効な除草剤を2～3回散布し、除草剤散布の間隔を10日以上空けない。



ポイント3：適切な耕種的管理により防除効果を最大化

代かき前に発生した個体が移植時まで残ると除草剤では防除できないため、代かき等で確実に防除する。

2回代かきや遅植えにより移植前の雑草イネを発生を増やし、栽培期間中の雑草イネ発生を減らす。

有効な除草剤	使用時期
初期剤 アルハーブフロアブル エリジャン乳剤 など	植代後～移植前7日 または 移植直後～、但し移植後30日まで
初中期剤 マキシ-MX1キロ粒剤 ワンオールS1キロ粒剤 など	移植時 または 移植直後～、但し移植後30日まで
中期剤 ナイスミドル1キロ粒剤 ザーベックスDX1キロ粒剤 など	移植後14日～、但し収穫60日前まで (ナイスミドル) 移植後20日～30日まで (ザーベックスDX)

対策マニュアル・除草剤情報

農研機構 「雑草イネまん延防止マニュアル」

長野県 「雑草イネ総合対策マニュアル」

日植調 「雑草イネ有効剤として実用化可能と判定された除草剤」

雑草イネ マニュアル [検索](#)

雑草イネ 除草剤 [検索](#)

まん延を防止するために

雑草イネ